

寮生活の思い出

平成元年昭和大学入学のころ

富士吉田教育部准教授 佐野 佳弘

私は、日本が“昭和”から“平成”に変わった平成元年4月に昭和大学薬学部に入學しました。京都市に生まれ18年間育った関西地方から関東地方への旅立ちに対しては、日常の慣習や言葉の使い方、食事の味付けも大きく変わったといった不安はあったものの新しい生活への期待の方が大きかったと思います。



寮生活の思い出としては、馬術部での活動がほとんどを占めており、その他はごくわずかです。馬術部では、飼付け(馬に食事を与えること)という活動があるため、その当番を部員内で決めて2~3名で寮から15分ほどの馬場に行くことが日課となっていました。そのため朝6時に目覚ましをセットしながらも、その音で起きることもなく正確に毎朝起床するといった健康的な生活を続けていました。放課後においては、いつも馬場にて同級生と馬と生活を共にしていたような記憶しかありません。このような部活動で充実した日々を送り、のんびりとした落ち着いた生活にとても満足していた私は、もう一年間くらい富士吉田キャンパスに居たかったと思っていたことを今も覚えています。



このような昭和大学での初年次を過ごした私が平成から令和の時代になった頃、再び富士吉田で教員として働いているのは運命を感じざるを得ません。今後も、私が初年次において部活動を安全に楽しく活動できていた状況を維持するためにも可能な限り見守っていきたくと考えています。

ボランティア活動について

地域の方々との清掃活動

保健医療学部看護学科 佐藤 香純 (横須賀大津高等学校出身)

5月12日(日)にロータリークラブの方々と合同で、清掃活動を行うボランティアに参加しました。初めに地域の方から挨拶や清掃方法の説明があり、ゴミ袋と軍手が配られました。そして、清掃ルートに沿って地域の方々や先生、友達とわいわいとおしゃべりしながらゴミを拾いました。普段は気にしたことなどなかったゴミを拾いながら歩くと、ペットボトルや缶、紙くずなど身近なものがとてもたくさん捨てられていることに改めて気づきました。



4月に富士吉田市の寮に入り徐々に生活に慣れてきたこの時期に、地域の方々とのような活動ができたことは富士吉田市を知る機会となり、よりこの地域が好きになりました。清掃活動後のバーベキューでは、地域の方々だけでなく、まだ話したことがなかった友達や先生とも話すことができ、これからの寮生活がさらに楽しみになりました。



国際交流について

非日常の毎日

保健医療学部理学療法学科 深津 風太 (長野県飯田高等学校出身)



私は2019年7月24日~8月9日まで米オレゴン州にあるポートランド州立大学での国際交流プログラムに参加しました。全学部の1年生から27名が参加し、約2週間のホームステイを体験しました。

このプログラムの多くが非日常でした。私の日本での毎日

は同じことの繰り返しで、つまらなく感じていました。しかし、このプログラムは期待を遥かに越えるものでした。たった1人でバスや電車に乗り込んでの通学、みんなで大興奮したサッカー観戦や大自然でのラフティング、最新の医療機器が導入され病院設備もとても充実していた医療施設見学、マーケットでの買い物など、どれも刺激的で、新鮮で、楽しく、あっという間に終わってしまいました。

英会話などに不安を感じる人も多いと思いますが、終わってみると自信に変わっています。世界に目を向けている人、刺激的な非日常を求めている人はぜひ参加してみてください!違った世界を手に入れられます!



白樺舎

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第37号 2020.4.21 発行

発行責任者 富士吉田教育部長 倉田知光
編集責任者 富士吉田教育部広報委員長 田中周一
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



「富士河口湖町 精進湖畔より」富士吉田教育部准教授 萩原康夫 撮影

新入生の皆さんを歓迎いたします

学校法人昭和大学 理事長 小口 勝司

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。この富士吉田校舎での全寮制教育は医系総合大学である本学における特色であり、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部の4学部の学生が共同して衣食住をともにします。共同生活を送ることで相手を思いやる心を育み、学部間交流を積極的に行い、意見交換の場としていただきたいと思います。将来を担う人間性豊かな医療人となることを念頭に切磋琢磨する皆さんの努力は必ず実を結び、自身の糧となります。この寮生活の経験がチーム医療の根底を学ぶよい機会となることを心より期待しております。

本学は創立者である上條秀介博士が掲げた「至誠一貫」の建学の精神のもと、社会に貢献する優れた医療人を育成してまいりました。昭和39年昭和大学富士吉田校舎を竣工して以来、この地に根つき平成27年には富士吉田市と地域の課題解決および活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与することを目的とした「包括的連携協力に関する協定」を締結し友好的な関係を築いております。また本年は事業計画の一貫として温泉の熱エネルギー利用を開始しエコキャンパスの実現に向けて稼働いたします。

本法人は盤石な財政基盤のもと、常に最新の設備で最高の教育を提供して参ります。ご父母の皆様におかれましても、ご理解ご協力をいただき共にお子様を医療人として大きく成長していく姿を見守っていただきたく存じます。

最後になりましたが、富士吉田校舎の教職員、皆様のご家族ならびに関係の皆様のご協力のもとに富士吉田校舎における新生活がスタートできますことを感謝申しあげてご挨拶とさせていただきます。

医療人への基礎作りの場：富士吉田キャンパス

昭和大学 学長 久光 正

昭和大学1年生の皆さん、富士吉田キャンパスによろこそ。皆さんは将来、医療に携わることで社会に貢献することをめざし、本学に入學しました。本学の特徴は医療人になる基礎作りを富士吉田で1年間の学部混合全寮生活を通して行うことです。医療は「ひと」に施すものです。それぞれの患者さんは異なる歴史、生活、習慣により築き上げた異なる人生を歩んでいます。これらの人々に対応するには皆さんがしっかりした医療人マインドをもたなくてはなりません。挨拶、礼儀、作法、思いやり、順法精神、対話力などの上に医療の知識や技術を積み上げていくのです。

昭和46年、今から50年前に私も富士吉田で1年間を過ごしました。当時は医学部と薬学部の2学部でした。男子は8人部屋で両学部4名ずつ、2段ベッド4つの寝室と8つの机がある勉強部屋で寝食を共にしました。その時の1年間で私たちは精神的に大きく成長したことを今、確信しています。その成長のきっかけは、友人達との対話でした。政治・恋愛・趣味、いろいろな話題について、深夜まで語り合ったことを覚えています。皆さんも、友人と大いに議論して心を鍛えていただきたいと思えます。

富士吉田の1年は皆さんの医療人としての人生の貴重な第一歩です。大いに羽ばたいて下さい。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺舎(男子寮)」「百合舎(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

講義について 充実した大学生活を送るために

歯学部歯学科 中村 英里 (甲府南高等学校出身)

1年生の授業は月・金曜日は学部連携、火～木曜日は学部ごとに分かれて受講します。学部連携で印象に残っているのはPBL (Problem Based Learning の略称)です。8人のグループに分かれ、全く知らない他学部の人達と話し合い、課題を見つけて学習するActive Learningの少人数授業です。最後に学習成果をまとめた発表会があり、放課後も集まってPowerPoint、原稿の作成、発表練習をしました。意見がぶつかったときは話し合い、折り合いをつけ、最終的にはグループ全員と仲良くなりました。今まで授業中に意見がぶつかり合うという経験はなかったので、とても新鮮でした。

専門科目で印象に残っているのは歯学入門です。毎回課題があり、同じ課題を調べた人の発表を聞きます。自分とは違う視点で調べてきた人の発表を聞くことで、新たな発見があり、発表方法の良い点、悪い点もたくさん学べました。参考文献の書き方も何度も書くことで覚えられ、これからは活用できる知識が増えた授業でした。

大学の授業は範囲も広く、掘り下げて勉強しないとついていけなくなります。受け身ではダメです。集中力を切らすことなく、効率よく勉強し、充実した富士吉田生活をしてください。



イベントについて 寮生活にしかない経験

薬学部薬学科 紀 旺来 (聖学院高等学校出身)



入学式が終わり富士山の麓に連れてこられた1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます!1年生の皆さんはこれから富士吉田キャンパスで約10カ月の寮生活を送ります。ひとりひとりの価値観や、過ごしてきた地域・環境などの違いから、最初は戸惑うことがあるかもしれません。しかし、これから色々なイベントを通してその人たちの新しい側面を発見することができます。

富士吉田のイベントには学校行事である体育祭や寮祭、学生主催のクリスマスパーティー、ハロウィンパーティーなどがあり、様々な部門に分かれ学生が主体となって運営していきます。寮生活でしか味わえないような経験もたくさんありました。これらのイベントは学部の枠、寮の枠を超えて友人たちと親しくなれる良い機会だと思います。ぜひ積極的に参加して寮生活を盛り上げ、最高の思い出を作ってください!

実習について 全部繋がっている

歯学部歯学科 村山 佳誉 (栄東高等学校出身)



私たちは1年生で動物の解剖実習をしました。臓器や血管の位置を観察することで、それぞれの器官がどのような流れで連携しているのかを理解できます。歯学部は、解剖実習と同じ時期に生物の進化についての授業を受けていました。その授業で学んだ臓器の進化についての知識を解剖実習で活かすことができ、バラバラだった知識が線で結んだように一つにまとまりました。授業の繋がりが見えた瞬間でした。

初年次体験実習では病院、施設、在宅訪問などそれぞれの実習を終えるごとに自分のスキルが上がり、次の実習に上手く繋げることができていたと思います。学年が上がってもこの経験を活かして、自分の持つ知識を繋げていく感覚を忘れずに実習に臨みたいです。

無駄な授業なんか一つもない。全てが繋がっている。私の大好きな先生がそう言いました。

意味のない授業や実習はありません。全ての経験が自分の今後の糧になると理解しているから私は授業も実習も全力で取り組みます。みなさんも実習を通して知識をつなげてみてください。

部活動について 部活動を通じた人とのつながり

薬学部薬学科 菅野 優翔 (成城学園高等学校出身)



昭和大学には運動部、文化部ともに数多く存在しており、各部活には1年生の代表者がいます。さらに、代表者の中から運動部をまとめる「体連部長」と文化部をまとめる「文連部長」とが選ばれ、中央委員会という学生による自治組織に所属することになります。月に一度の合同委員会に参加して各部活からの要望を伝えるなど、活動の向上に努めます。両部長は部活動の予算のまとめや備品の管理など責任のある立場になり、とてもやりがいのある仕事だと思います。

1年生の間は仮入部であり、多くの方が部活に所属し、活動しています。部活を通して異なる学部の人と交流したり、部長を務めることで先生方や寮長、代議員の人との関わりも増えます。また、入学してすぐに先輩たちによる1年生を対象とした新歓が行われ、寮生活の話聞くこともできます。部活に参加することで、学部やコンパとはまた別の、人とのつながりをぜひ作ってください。

学生会について 自分たちの大学

医学部医学科 下島 颯太 (浅野高等学校出身)

学生会は高校でいう生徒会のような役割を持っているのですが、大きく異なるのはその権限の大きさです。富士吉田キャンパスでは学生が主体となって物事を決めます。他の学生から出た要望や寮生活についての決め事、1年間の予算、寮祭などのイベントの立ち上げを教員の方々と共に対等な立場で意見を出し合います。また話し合いは月に一回開かれます。つまり、学生と教員の橋渡しの役割を果たしています。

また学生会は、中央委員と呼ばれる委員が中心となっています。大学の運営に実際に関わること、組織への指示の出し方、大きな仕事の委員間での役割分担の仕方なども学ぶことができました。これらは将来医療職についたときに必要不可欠な能力だと思います。簡単な仕事ではないですが、とてもやりがいのある仕事なので、興味のある方はぜひ立候補してみてください!



部屋メンについて 寮生活でできた最高の仲間たち

保健医療学部作業療法学科 船津 時代 (芝浦工業大学柏高等学校出身)



昭和大学では4学部合同での一年次全寮制教育が行われており、3～4人一組で一年間の共同生活を送ります。この寮生活は昭和大学の目指すチーム医療の基本となる他者とのコミュニケーションや、自身の自立など様々な成長の手助けになっています。この寮生活を送るうえで深くかわってくるのが同部屋の仲間たち、いわゆる「部屋メン」です。

寮生活では学習室と寝室を部屋メンと共有するので、一日の多くを部屋メンと共に過ごします。そのため、次第に友情や仲間意識が芽生えていきます。寮生活は楽しいことばかりではありません。人間関係等に苦しみ、寮生活なんてやめてしまいたいと思うこともあるかもしれません。しかし、今までと違う環境に勇気をもって飛び込み、目の前にある困難な壁を乗り越えることで自身が成長できる、そのように私は思います。こうして様々な難題をともに乗り越えてきた部屋メンは、必ず皆さんの最高の仲間となるでしょう。

寮生活について かけがえのない一年間

医学部医学科 柴田 潤輝 (開成高等学校出身)



新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。昭和大学の初年次は寮生活になると聞いて、皆様の中には期待している方もいらっしゃるかもしれませんが、不安を抱えている方もいらっしゃるかと思います。しかし、いずれにしても富士山の麓でのこの一年間は、様々な面において有意義で忘れられない一年間になるでしょう。

寮生活では、学部の垣根を越えて数多くの人と関わることができます。たとえば、寮内で部屋の友人と語りあったり、食堂で友人と共に食事をしたりすることで親睦を深められます。また、講義を受けていない時間は各々が自由に過ごすことができます。放課後には、部活動で体を動かす学生もいれば、買い物や食事のために出掛ける学生もいます。さらに、学生が主体の大きなイベントも開催され、昨年度は前期には寮祭が、後期にはハロウィンパーティーが開催されました。

このように、昭和大学の寮生活は多種多様な人と関わることで、自らの協調性やコミュニケーション能力を養える機会が豊富です。仲間と笑いあいながら一年間楽しみ尽くして、素敵な思い出を作ると同時に、何気ない日々の中から色々なものを学び取ってください。

